

被災者の継続支援訴え

フィリピン震地 AMDA活動報告



フィリピンでの支援活動を報告する
(右から) 荻野さん、大山さんら

国際医療ボランティアAMDA(岡山市北区伊福町)は23日、フィリピン中南部で発生した地震の被災者支援のために現地入りした看護師ら3人の活動報告会を市内で開いた。

3人は、看護師の荻野祥子さん(46)＝東京、フィリピン出身で調整員の大山マージョリーさん(53)＝井原市、AMDA職員の女性看護師。13日から現地で活動し、22日に帰国した。

余震が続く被災地を巡りながら約千人の子どもにダンスやお絵描

きを通じたメンタルケアに当たった。大山さんは「フィリピンは日本に比べて地震が少なく慣れていないため、恐怖に苦しむ人が多かった」と説明。コメや缶詰といった物資提供もしたが、荻野さんは「国の支援が届きにくい避難所もあり、継続したサポートが必要だ」と訴えた。

地震は9月30日に中部セブ島沖で、10日には南部ミンダナオ島沖で発生。AMDAによると22日現在、死者は89人、負傷者は735人に上るといふ。

(中村啄也)